



報道関係者各位

平成28年9月28日
青森県立保健大学

大学生の地元定着就職に関する インタビューの結果

本学では、卒業生の県内就職・定着・Uターンを推進する事業を展開してきました。このたび、就職地（県内 or 県外）を決める要因について、学生の「生の声」から分析したので、報告します。

I. 調査について

平成28年3月に卒業、4月に就職した学生のうち、青森県出身者を中心とした本学学生及び既に就労している卒業生29名を対象とし、2月～3月に行いました。将来のキャリアや暮らし方について、就職地及び就職先を決定した決め手について質問し、この結果を、就職地を選択する要因を中心に分析しました。

本調査は、弘前大学が平成27年度に採択された、文部科学省の助成事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業である、「女子学生の県内就職・定着に向けたキャリア支援教育プログラム」（青森県立保健大学が開発主査校）の平成28年度活動として行ったものです。

II. 結果について

就職地を決めるにあたって、4つの要因が関連していることがわかりました。

次ページの図のように、4つの要因を秤にかけ、そのバランスによって就職地が決定されているのではないかと考えています。

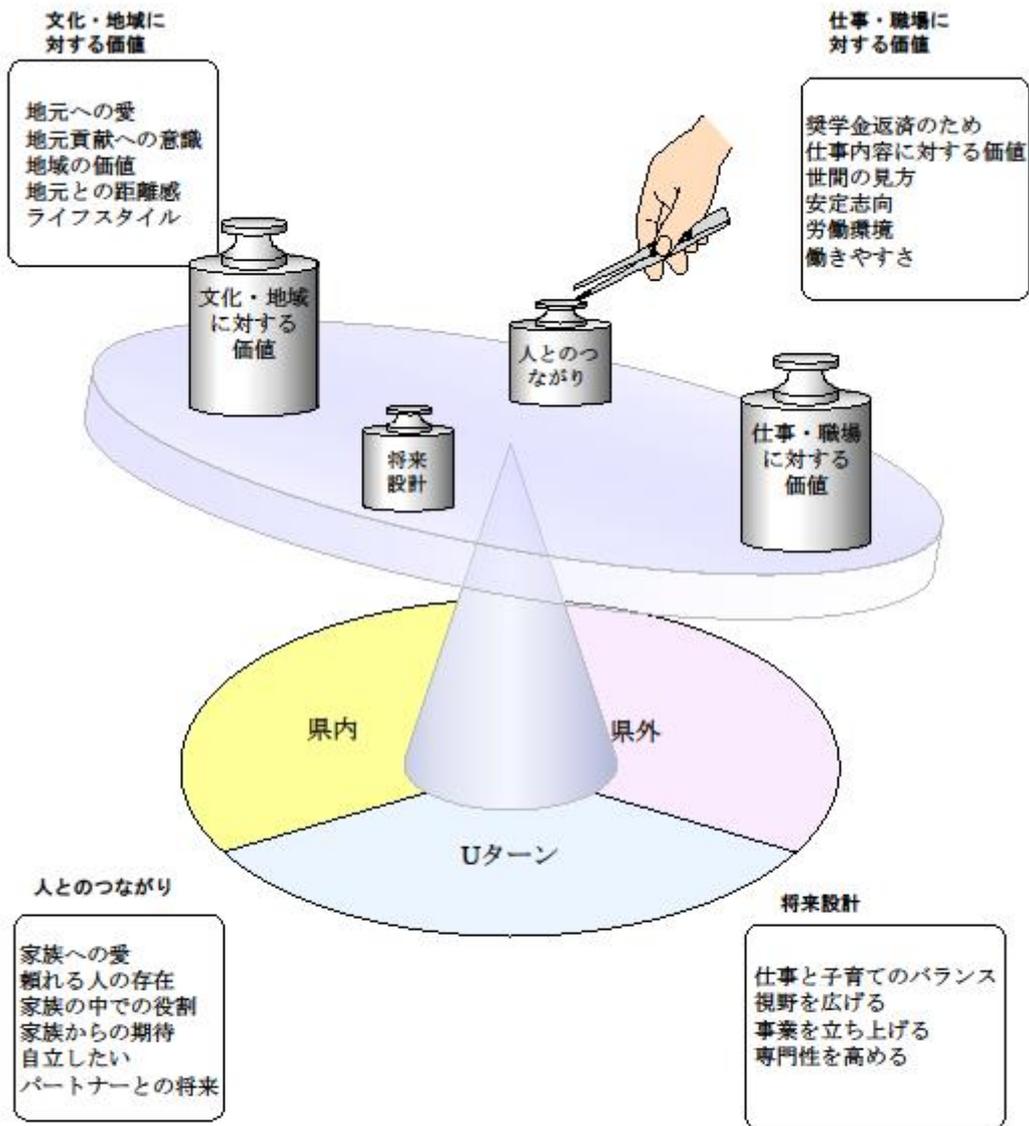
学生は故郷である青森の文化や風土に対する愛着や、故郷の役に立ちたい意識を感じていました。しかし、「青森に残るのは負け組」といった、「挑戦できずに残る私」というネガティブな語りもありました。また、県外にいる青森県出身者の活躍を心強く感じていました。

仕事・職場については、安定・堅実志向であり、仕事をする以外以外の心労（人間関係や、劣等感など）を抱えたくないと感じているようであり、余裕のある仲の良い職場で、サポートが受けられることを望んでいました。

人とのつながりについては、現在の親との関係だけでなく、将来老いていく親について考えが及んでいました。また、頼れる人のそばにいて安心したいという思いもあり、これが県内への就職、友人のそばでの就職に結びついているようでした。また、「パートナーとの将来」が、就職地選択に強く影響していると考えられました。

将来設計については、「出産・子育て」についての要因が多くみられました。学生は、子供を産みたい、相應の時間をかけて育てたいと希望していました。しかし、産休や育休、仕事と子育ての両立については、具体的なイメージが抱けていないようでした。

故郷への就職を推進するためには、故郷への愛着を育てることだけでなく、ここに居たい（離れがたい）と思えるような人間関係が形作られていることが必要だと思われます。また、出産や子育て、生活にかかる時間やお金に関して具体的なイメージを持つことで、確信をもって就職地を決定できるのではないかと考えています。



図：就職地決定モデル

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市大字浜館字間瀬 58-1

TEL:017-765-2003 FAX:017-765-2188

担当:教務学生課 課長 深堀 満
